体験活動参加型＋在宅取組型（保育園）

学 校 名 等	白川村立平瀬保育園
実 施 日 時	通年で
会　　場	自宅　／ 平瀬保育園
参 加 人 数	８家族
学習課題（分野）	家族で生活を見つめよう
運営者の願い	今までの活動や取組を大きく変えることはせず、既存の幼児家庭教育学に在宅取組型を組み合わせ、「各学級での学び」が「家庭での実践」に繋がることを目指す。

学 習 の 内 容

＜「読み聞かせ」(8/25)　＋　在宅実践「親子で本を楽しむ」　(10/19～10/31)＞

まず、福山信子講師による「親子読み聞かせの会」を開催。そこで学んだ「本を通してふれあうことの楽しさ」を家庭でも実践してもらう。**今回の目的は本を読むことのみを重要視するのではなく、本を使って親子で過ごす時間を増やすこと**。チラシにはそのための例を挙げ、クイズ形式で、「これ誰だ？」「　これな～んだ？」と問いかけてみたり、絵本を見ながら会話を楽しんだり、話の続きを考えたりしてもらうヒントや、気持ちを楽にして取り組めるように、「“読書”＝“勉強”といったかたいイメージにならないように」と、保護者委員さんからのアドバイスが書かれていた。

目的：親子で過ごす時間を増やすこと

保護者の“ナイスアイデア”で「我が家のお薦め本」を展示。他の家の参考になります。

＜在宅取組の感想＞

・普段はテレビを見て過ごしている時間帯だが、テレビを消して絵本を楽しめた。

・「一緒に絵本を読む時間を作るんだ！」という意識でいれば時間はどうにでも作れると思った。

・夜寝る前などの隙間時間に、普段あまり読んでもらわないパパに読んでもらった。

＜「親子運動教室」(11/2)　＋　在宅実践「ふれあって一緒に感じよう」(12/1～11)＞

まず、花川総子講師による「親子エアロビ教室」を開催。先生の「そうそう上手いね～」「できてるよ～」「じゃあ次は～」といった「褒め言葉」＋「挑戦の言葉」かけによって、子どもたちだけではなくお母さん方も楽しく取り組めた。親子で共に体を動かすなかで、「楽しい」「難しい」といった思いを共に共感することができた。この活動を通じて、「家庭で生活を見直す」ポイントは、親子で共に活動し共に共感することができているかである。そこで、**第２回在宅実践では、親子で活動をするなかで「楽しいね」「難しいね」と共に共感し、「恥ずかしかったね」「すごかったね」と言葉でもふれあうことを大切**にした。思いやりの心を育むためには、家族のふれあいの中で、相手の気持ちを考える機会を積み重ねていくことが大切なのではないかと思う。今回の在宅実践を機に、「家族でふれあい＋共感」が増えていくことを願っている。

お手伝い中

＜在宅取組の感想＞

・一緒にお気に入りの絵本やDVDを見るだけでも、楽しさを共感でき、よい時間を過ごせたと思った。

・プランターに球根を一緒に丁寧に植えた。春に芽が出ること、花が咲くことを一緒に喜べることが嬉しい。

＜成果と課題＞

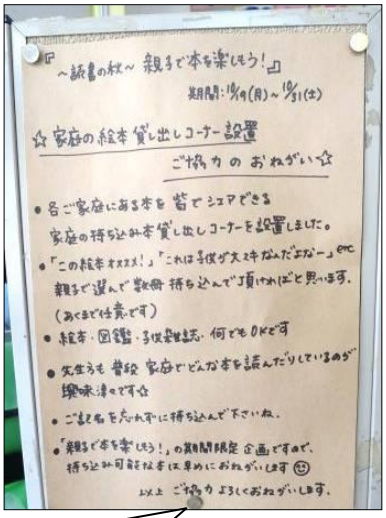
○これまでのスタイルを生かしながら、目的を明確にし、「学習会」＋「在宅実践」を取り入れたため、無理なくできた。

○役員からのチラシに、取組の具体例が示されていたことで実践しやすかった。また、レポートから「子供の成長・親の学び」を感じている保護者の姿があった。

△レポートのための取組で終わった家庭もあり、「在宅実践」のよさをもっと広めていきたい。

今までのスタイルは変えず、「学習会」にプラスαとして「在宅実践」を取り入れた活動です。しかも、目指す姿が明確で具体的であるところが素晴らしいです。

「在宅実践（在宅取組型）」により、学びが実践に繋がり、さらに、子どもや家族の変化（成長）に繋がることを目指しています。更に学習会に参加できなかった親や祖父母も巻き込んで、都合のいい時間に取り組んでもらうことができます。



園の「我が家のお薦め本」の隣に貼られている「貸出コーナー設置ご協力おねがい」チラシ。「他の家庭のお薦め本」を我が家でも読んでみたいという保護者の声から生まれたコーナーです。

提出されたレポートから、多くの家庭が学習会で学んだことに意識して取り組み、親子で生活を振り返り、改善しようとする姿が見られたようです。また、母親のみならず、父親や祖父母も在宅実践に関わることができたようです。